

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年3月31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870300878		
法人名	有限会社ケア・コンフィデンス		
事業所名	グループホーム しょうわ家族	ユニット名	亀
所在地	〒300-0877 茨城県土浦市荒川本郷218-173		
自己評価作成日	平成26年9月24日	評価結果 市町村受理日	平成27年3月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870300878-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年11月13日	評価機関 決 済 日	平成27年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・ 日中玄関の施錠は行わないで自由に入出入りが出来、利用者の方が三々五々散歩をしたり、前庭で寛ぎ開放的な雰囲気である。地域の方々との交流も篤くボランティアさんの定期的な来訪が多い。施設内外が緑にあふれ、四季折々の花が楽しめ、入居者の方の癒しになっている。野菜や果実を育て食材として利用しており、食事はすべて手作りをしている。面会時間を設けずいつでも自由にご家族や知人の来訪を受け入れている。グループホームの名前のとうり1つの大きな家族として賑やかに穏やかに日常生活が送れるように支援している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の建物は一般家庭のような造りで、玄関前や建物の周りに樹木や草花を植栽し、手入れの行き届いた庭を作っている。</p> <p>玄関の奥には中庭が続き、鳥骨鶏が3羽と犬が飼われており、代表者は利用者が自宅で生活しているような雰囲気で、居心地よく暮らせる環境づくりに努めている。</p> <p>事業所で開催する「秋刀魚祭りや芋煮会」には近隣住民に招待状を配布し、事業所の道路際には立て看板を設置して多数の近隣住民の参加を得るなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流を図り、利用者が地域とつながりながら生活ができるように支援をしている。</p> <p>管理者と職員は利用者の尊厳を大切にし、利用者が穏やかに自由な暮らしができるよう利用者一人ひとりに寄り添った支援に努めている。</p> <p>同一法人の認知症対応型通所介護事業所が隣接しており、通所介護を利用していた利用者は事業所の行事や日々の交流で職員や利用者との入居の前から馴染みの関係ができていたため、不安なく入居開始が出来る。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールが目立つ場所に理念を掲示している。常に目にする事で意識化されている。日常業務において施設長が必要に応じて言及して意識付けしている。	理念は事業所設立時に代表者や管理者、職員で作成し、6年前に地域密着型サービスの意義を踏まえた理念に見直しをしている。 職員が常に理念を確認ができるように、玄関と事務室の壁面に掲示をしている。 管理者は日々のケアや職員会議等で理念に基づいたサービスが実践されているかを確認し、職員は理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ガソリンスタンド、プラスチック工場、会計事務所、美容室、民家と日常的に交流をしている。夏祭り等行事の時は近隣の方にもご案内して参加していただいている。	事業所行事の餅つき大会や夏祭り、流し素麺、秋刀魚祭り、芋煮会には地域住民に案内状を配ったり、立て看板を立てたりして地域住民に参加を呼びかけ、大勢の参加を得ており、秋刀魚は100匹近く準備し、芋煮会では地域住民も材料を持ち寄り、参加できない近隣住民には芋煮を届けるなど、地域住民と日常的に交流をしている。 事業所の廊下の壁面に季節の写真や絵画を掲示してくれるボランティアや歌や三味線、ギター演奏、朗読等の地域のボランティアを定期的に受け入れたり、介護専門学校の学生4人による6日間の実習と成年後見人の実習生2名を受け入れるなど、利用者が地域住民と交流ができるように支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設しているデイサービスを通じて、地域の方々へ認知症の理解をしていたく同時に気軽に相談が出来る事業所である事を地域に発信していきたい。認知症の方が地域の美容室を利用する事で認知症への理解の一助にもなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催されている会議において施設の現状を報告して、意見交換をしている。行事計画の予定や実施の報告をして述べられた意見をスタッフにも伝えて実際の活動に生かすようにしている。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、社会福祉協議会の介護相談員、自治会長、民生委員、地域住民1名の参加を得て2ヶ月に1回開催している。 事業所側からは利用者の様子や運営状況、行事の内容等を報告をし、事業所の祭事に地域住民の参加を呼びかけているが、事業所のサービス向上に活かせるような意見を出し合えるまでには至っていない。	運営推進会議において、参加者が意見を出し易いように議題を決めるなど、参加者の意見が運営に活かされることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員に運営推進会議に出席していただき意見交換をしている。市主催の研修会、説明会には必ず参加している。日常的に担当者と連絡をとり相談・アドバイスを受けたり、市の要望をお聞きしたり信頼・協力関係を構築している。	管理者は市担当者が運営推進会議に出席した際のほか、要介護認定や更新時に書類を提出しに行ったり、日頃から電話で事故報告や利用者の入退去報告をするなど、情報交換をしたりして日頃から協力関係を築いている。事業所の行事にも市担当者の参加を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	25年度身体拘束に関する勉強会を実施した。転落防止のために1名ベッド柵を使用しているがご家族に説明をして同意を頂き使用は必要最小限に留めている。他、身体拘束は行っていないが禁止の対象となる具体的な行為の意識を徹底させたい。やむを得ない場合を除いて玄関の施錠は行っていない。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成し、職員研修を年1回実施して全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解している。現在は要介護5の入居者が、転倒防止目的で家族等の同意書を得てベッドに柵を使用している。防犯のため夜間のみ玄関を施錠しているが、日中は利用者が広い庭や畑を自由に出入りしており、事業所の外に外出の際には職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	25年度虐待に関する勉強会を実施した。接遇のDVDをスタッフ全員に回覧して理解を深めた。ケア会議に於いて具体的なケースに関連して話し合いをする機会があり、その都度意識付けをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	後見人制度を利用している利用者が数名おられ、実務で後見人とのやり取りがあり理解はしている。後見人養成機関の実習を毎年受け入れており、その際実習生を通して充分ではないが理解を深めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は会社代表者が主に行っている。ユニット管理者も同席して入所に関する説明やご家族の要望をお聞きしている。面談を重ねてご利用者・家族とも不安なく入所して頂けるよう十分配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望、意見は来訪時、電話等その都度お聞きしている。要望意見があった時はスタッフ、管理者、施設長が話し合い、反映できるように配慮している。直ぐに対応出来ない場合はケア会議等で検討し更にご家族との話し合いを重ねるようにしている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 月1回2名の介護相談員を受け入れている。 利用者からは日常の問いかけや会話の中から要望を聴き、利用者の思いにそえるように支援をしている。 職員は家族等の来訪時や電話連絡の際に意見や要望を聴くように努めているが、運営に反映させるような意見が出されるまでには至っていない。	家族等が意見や提案を出し易いように、お便りに意見を出してもらえるよう記載したり、アンケートを実施したりすることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、ユニット会議、朝・夕の申し送り会で意見、提案を聞く機会がある。直ぐに実施できる事はその場で検討して反映させ、ケア会議の議題、ユニットでの議題に取り上げ改善につなげている。	管理者は日頃から職員が何でも話せるようにコミュニケーションを図っているほか、月1回の職員会議の際に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 管理者は職員の個々の希望を汲み入れた勤務表を作成するなど、職員の働き易い職場環境づくりに努めている。 「人間関係を重視して利用者の席替えをしてはどうか」との職員の意見を取り入れ、利用者が楽しく1日を過ごせるように工夫をするなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎日出勤して職員の勤務状況を把握している。管理者は変動シフト制の勤務形態に於いて本人の希望を出来るだけ配慮して勤務体制に反映させている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会を年3回実施している。代表者、管理者は適宜認知症介護実践研修、管理者研修、初任者研修の受講を支援しており今年度現在2名終了し、1名受講中である。資格取得の為の研修講座を4名受講している。研修の案内を掲示して情報を提供し機会の確保を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度、他事業所を職員と入居者の方と訪問して施設間交流会を行なった。今後も続けていきたい。また職員が個人的にボランティア活動を行なって他施設の職員と交流している。また他施設職員の施設見学を受け入れている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居前の事業所ケアマネ、家族等から情報提供を受けご本人の理解に努めると共にご本人との会話、ことば、表情、行動等からご本人の不安を理解して安心を引き出せるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階では施設長、ユニット管理者がご家族とお話をする機会を複数回設け、コミュニケーションをとりながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多くは併設しているデイサービスからの入居であるため、デイサービス相談員がご家族と連携を密にとりながら見極めている。ユニット管理者も相談員と連携してスムーズな入居のために受け入れを準備している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意欲を尊重して洗濯たたみ、食器洗い、モップ掛けなど日常生活の中でご本人の出来る事をして頂き、出来ない事を支援して職員・ご本人が共に生活する者同士の関係性を持てるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は共にご本人を支える立場であると認識している。電話、来訪時に近況報告を行うと同時に、ご家族からの要望、相談も受けている。年4回しょうわ便りを発行して担当者からのコメントを添えている。特に体調変化に関しては連絡を密にしている。面会、外出など制限はなく自由に行なって頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知り合いの面会など制限なく受け入れている。個別ケアにて自宅に赴いたり、外泊を支援している。主治医は入所前の主治医がそのまま引き継いでいる。	職員は利用者の家族等や親戚、元の住まいの近隣住民や職場の同僚など、馴染みの人達が来訪した際には、好きな場所でゆっくり話しができるよう配慮をし、継続的な訪問が得られるように支援をしている。 利用者は馴染みの美容院に家族等と行ったり、家族等や友人と食事に行ったりするほか、職員は利用者の希望で図書館や利用者の元の住まいに同行するなど、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないように取り組んでいる。 初詣を始めとした事業所の外出行事には、利用者の馴染みの場所に行くように配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日両ユニットの入居者が一緒に集い、体操や口腔体操、合唱、カラオケなど楽しんでいる。両ユニット同士自由に行き来して気のあった人同士交流出来るよう玄関、前庭、共用スペースにソファ等配置してしている。座席など関係を考慮した支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全部ではないが手紙のやり取りを通じて近況を把握している。電話、来訪された時はお話を伺い相談できる関係を絶やさないように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族からお話を伺いながら、日々の生活ぶりや言動を観察する中でご本人の希望や意向をくみ取るよう努めている。	職員は利用者の生活歴を把握するとともに、日常の関わりや会話を通じて希望や意向を聴いたり、家族等から情報を得たりするほか、新しい情報はモニタリングノートに記載して共有し、利用者が望む暮らしを支援している。 意思表示が困難な利用者の場合は、表情や仕草等を観察して職員で話し合ったり、家族等に相談したりして、利用者の思いを汲み取るよう努め、利用者本位に検討をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から暮らしぶり、生活歴、生活環境についてお話を聞くと同時に入所前にかかわってきた担当ケアマネ、事業所からの情報提供を受けて把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に毎日記録をして状況把握を行っている。申し送りノート、1日2回の申し送りで変化や心身状態など情報共有している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議、ユニット会議、ご家族との面談、訪問看護などにおいて施設長、管理者、計画作成担当者、居室担当者、スタッフ間でケース検討を行っている。それを踏まえて計画作成担当者が介護計画書を作成している。モニタリングノートに経過を記録して1ヶ月毎に評価をして介護計画に反映させている。	介護計画は利用者と家族等の希望を取り入れてケア会議を毎月行い、その際にモニタリングも実施して計画作成担当者が作成をしている。 短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月で見直しをしている。 利用者の心身状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直しをしている。 介護計画書は家族等に郵送などはせず、家族等が来訪した際に確認を得ており、長期来訪の無い家族等には電話で内容を知らせ、来訪の際に確認を得ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個人記録、申し送りノート、モニタリングノートに記録している。スタッフは記録の閲覧、朝・夕の申し送りで情報の共有をしている。モニタリングノートでは1ヶ月毎に振り返り評価をしてケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイホーム、デイサービスを併設して多機能化を図っている。個別のニーズに応じて利用して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に近所を散歩して、言葉かけやお茶をいただいたり交流させてもらっている。定期的に近隣の方がボランティアとして来訪されている。多くの入居者が近くの美容室を利用して交流している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も継続してかかりつけ医にて医療を受けている。往診、通院の際スタッフが相談するなどかかりつけ医との関係を築いている。往診、通院介助を行い支援している。	かかりつけ医は利用者や家族等が希望する医療機関とし、受診は家族等の付き添いを基本としているが、家族等が同行できない場合は有料で職員が受診の支援をしている。 職員は家族等に利用者の状態を伝えたり、バイタル表を渡し、適切な受診が出来るように支援をしている。 職員が受診に同行した場合は、結果を家族等に電話で報告して、利用者の健康状態を共有している。 1人の利用者につき、かかりつけ医による訪問診療が2週間に1度実施されているなど、かかりつけ医とも良好な関係を築いている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている訪問看護事業所から毎週火曜日訪問があり、1週間の様子変化、体調の気づきなどを伝えアドバイスを受けている。24時間相談可能で急な状況の変化にも対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、担当の医師、看護師と家族と共に話を聞き病状、治療方針の把握に努めている。面会をすることで安心して入院生活が送れるように支援をしている。入院中、退院後の支援についてご家族、病院関係者と協議をして退院後の生活支援に備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期対応の指針を定めて、入所時にご家族に説明し理解を頂いている。重度化や終末期にはご家族と丁寧に話し合いを重ねて、ご家族の希望、方針などを細部にわたり聞き取り、ご家族の納得のいく形で看取りを行っている。	事業所は「重度化対応・終末期対応指針」や「医療連携体制加算及び看取り介護加算に係る同意書」を作成し、入居時に説明して書面で同意を得ている。 重度化や終末期が予想される場合には、主治医や訪問介護ステーション、家族等と事業所で出来ることを話し合い、事業所として看取りの体制はできている。 ターミナルケアの内部研修を年1回実施し、全職員が統一したケアができるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、24時間体制の訪看との連携の体制を整えているが、応急手当の訓練は数年前に行って以来実施していない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いで年2回の火災訓練を行っている。非常呼集訓練と夜間を想定した訓練を実施した。9/26実施する火災訓練では近隣の方々に火災訓練の実施のご案内をして訓練参加のお願いをした。	年2回避難訓練が行われ、うち消防署立ち合いの訓練と夜間を想定した訓練を、地元消防団員も含めて地域住民18名ほどの参加を得て実施しており、参加者から「消火器が何処にあるか分からなかった」との意見を受けて消火器を玄関に置くなど、訓練後は全職員で反省会を行って課題を話し合うとともに、記録に残して次回の訓練に活かしている。 災害に備え、飲料水は500mlや2L入りのペットボトルで大量に備蓄し、ビスケット等も備えているほか、食材は食料庫や2つの冷蔵庫、冷凍庫に保管し、畑には常に季節の野菜があるため安心であるとともに、水道水の貯水槽と井戸が事業所の敷地内にあり、災害時には近隣住民にも提供できるようになっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症だけの側面を捉えるのではなく、全く別個の生活を営んできた人生の先輩であることを意識して接している。特に身体介助では言葉かけに留意している。役割をお願いするときはご本人の意欲を尊重している。	職員は利用者に丁寧に話しかけるなど、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。トイレ介助や入浴時には誇りやプライバシーを損ねないように対応している。個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。利用者のホームページへの写真の掲載は、家族等から書面で同意を得ている。	利用者の写真の掲載は、ホームページだけでなく「しょうわ便り」や事業所内に掲示する写真においても、書面で同意を得ることを期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩など気の合った人同士が気軽に気が向いたときに行なえるよう支援している。日課への参加の声掛けは行うがご本人の気持ちを尊重している。日常会話の中で何気ない思いや気持ちを表出できるような雰囲気づくりに気を配っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記と同様の外、居室で今日はちょっと縫い物をしたい、片づけをしたいなどご自分なりの作業をしたい時や集団から少し離れて静かに過ごしたい気分ときには職員が見守り又は付き添ってご本人のペースで過ごせるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品、ヘアークリームなどお気に入りの品を用意している。美容院に定期的に通いヘアースタイルも好みに応じて整えている。その方に合った清潔な衣服が身に着けられるよう配慮している。個別ケアでご本人と買い物に行き好みの衣服を購入する場合もある。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、下膳、テーブル拭き等、できることを無理なく行える様支援している。出来上がったものを一緒に食べることによって会話の幅が広がり食べる楽しみに繋がっている。各種の野菜、果実を育て、収穫する喜びを味わい食卓に乗せ食を楽しんでいる。	毎日の食事は利用者の希望を取り入れ、地元業者から届けられた食材に合わせて自家菜園の野菜も四季を通じて収穫し、職員が季節に合った献立を考えて料理を作るため、利用者はもとより家族等からも喜ばれている。 職員は利用者と一緒に会話をしながら食事を摂っている。 利用者と職員で2ヶ月に1回外出に出かけたり、事業所の行事で地域住民と一緒に食事をする機会を設けたりして、利用者が楽しみな食事となるように支援をしている。 利用者は能力に合わせて食材の皮むきや下膳、テーブル拭きなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人に合わせた食事形態・量を提供し、摂取状況を記録し把握している。またその日の体調に合わせておかゆに変更するなど、臨機応変に対応している。水分は毎食・おやつ時・入浴後・外出からの帰所時・談話のとき等、折に触れ提供し摂取量を記録し把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時・毎食後、職員による口腔ケアと声掛けを行っている。訪問歯科と連携しており現在2名の方が利用している。認知度の高いご利用者は口の中の違和感が行動に表れ易く、口の中がさっぱりすることで精神の安定につながるよう配慮している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各人の排泄パターンに合わせてトイレの誘導声掛けを行っている。その方特有のサインを把握することに留意して、夜間のみポータブルトイレを使用、夜間おむつで日中は紙パンツ、夜間紙パンツで日中は布パンツと状況に合わせた支援を行っている。記録をしその日の排泄の間隔を把握して誘導をしている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行うとともに、時間を決めて誘導したり、利用者の様子から声をかけ、トイレでの排泄を促している。 職員の適切なトイレ誘導や必要に応じて夜間はポータブルトイレを使用し、夜間でも無理なく自立した排泄が出来るよう支援をした結果、パッドの使用量が減るなどの改善につながっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等便秘によい食品を取り入れたメニュー水分を多く含む寒天・ゼリー等の提供を心掛けている。看護師・主治医との連携を取り必要に応じて便を柔らかくする薬の服用等対応している。日課で体操を取入れリフレッシュを図っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	火曜日以外（訪問看護の日）午後2時～4時に1日3～4人入浴を実施している。各入居者に合わせた入浴準備・声掛けを行い、偏りがないように曜日・時間を調節しながら支援している。ご希望で気の合った人と一緒に入浴したり、入浴日の希望のある時は希望に添えるように対応している。	風呂は火曜日以外毎日沸かし、利用者の希望にそっていつでも入浴ができる体制となっており、最低週2回入浴するように支援をしている。 体調によって入浴が困難な利用者には清拭や足浴で対応し、入浴を拒む利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えて声かけをするなどの工夫をして入浴が出来るように支援をしている。 柚子湯や菖蒲湯で季節感を出すほか、入浴剤を使用したりして入浴が楽しめるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに合わせた休息や就寝が出来る様配慮して声掛けをしている。休息の習慣がある方にはご自分のペースで休息できるように支援。寝具はお天気の良い時に天日干しをし、シーツ類は少なくとも1週間に1度は交換して快適に眠れるように、夜間は夜勤者が巡回し安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎に薬の処方箋をファイルし、いつでも確認できる体制を整えている。薬の変更ある時は送りノート、個人記録、朝・夕の送りで伝えている。服薬時、薬袋の名前・量を確認の上手渡しし飲みみまでを確認している。便秘薬は便の状態に注意をし、変化ある時は看護師・主治医と連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、散歩が好きな方は散歩家事が好きな方は野菜の皮むき・食器洗い・洗濯たたみ、お針が好きな方は縫い物、本が好きな方は馴染みのある本、歌が好きな方はカラオケ、昔の映画が好きな方は映画観賞等できること、楽しめることを無理なく、それぞれのペースで行なえる様支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添っての個別支援は十分ではないが、ご自身で散歩に行かれる方はその日の希望で出かけている。ご家族の希望で定期的に外泊されている方もいる。月1～2回お天気の良い日に季節を感じられるようにドライブ或いは外食にグループに分かれて外出している。	天気の良い日には事業所周辺や事業所の庭、畑なども利用者の散歩コースとなっている。 近くの神社の初詣を始め、桜や薔薇園、あやめ祭り、菊祭り、雛祭り見学などに事業所の車両で数回に分けて全員が出かけている。 天気の良い日には利用者の希望を聞きながらドライブに出かけるなど、外出の機会を多く設けている。 利用者の希望にそった外出に職員が同行できない場合は、利用者の希望を家族等に伝え、家族等と一緒に出かけられるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はお小遣い程度を事務所でお預かりをして、日用品購入や美容院代などに充てている。歯磨きを買ってほしい等ご希望があるときにスタッフが購入している。機会は少ないが買い物に付添い支払うこともある。美容院ではご本人の目の前でお金を支払い実感が持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人の希望があるときにはいつでもかけられるよう支援している。ご本人あてに届く手紙はすぐにお渡ししている。以前は年賀状を書いていたが、年賀状を出す真意を伝えるのが難しくなり近年は実施していない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとのホール壁に季節を感じる飾りつけを毎月作成している。その作品を見ては入居者さん同士の会話が弾むこともある。施設内外には緑が溢れ四季折々眺められ癒しの空間となっている。また写真が趣味のボランティアさんが季節に相応しい写真を玄関共用スペースに掲示され、絵が趣味のボランティアさんは廊下に季節感ある絵を展示されあたたかい空間を演出している。	玄関には観葉植物と季節の草花を飾ったり、庭や中庭に樹木や草花を多数植えたりして、利用者が部屋に居ながらにして季節を感じられるように支援をしている。 2つのユニット間の「神楽」と呼ばれる、ホールと8畳の畳部屋があるフリースペースには、ピアノやソファ、1人掛けの椅子を配置し、利用者が一堂に集まったり、自由に寛いだりできる空間となっている トイレは車いす対応でも十分な広さがあり、共用空間は清潔に保たれ、職員は温度や湿度に配慮して利用者が居心地よく生活ができるように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に歩け、玄関ホール、各ユニット、神楽の間にはソファ、長椅子、籐椅子が置かれ、各人好みに応じて過ごすことができるように配置されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、かつて使用していた家具や、お仏壇、馴染みの品や思い出の品、写真、テレビなど持ち込み、ご本人の好きなように配置されており、かつての生活空間と違和感がないように工夫されている。	居室にはエアコンや洗面台、クローゼットが備え付けられている。 窓のカーテンは利用者の好みで持ち込んでもらい、自宅と同じ雰囲気となるように支援をしている。 利用者はベッドや寝具類、家具、鏡台、椅子、テレビ、時計など使い慣れた物品のほか、仏壇や位牌、家族の写真、人形、カレンダー、自作の折り紙等を飾り、居心地よく今迄の生活と同じように暮らせるような居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札を掲げてご自分の部屋と分かるようにしたり、トイレなど目印をつけて分かり易くすることによって場所が分かればトイレに行くことができる自立への支援を行っている。施設内の手すりの設置は安全に施設内で生活ができる一助となっている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームしょうわ家族

作成日 平成27年3月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、事業所のサービス向上に活かせるような会議運営を行う	運営委員と施設側職員との密度の濃い意見交換が行なえる	議題、話し合う内容を決めるなどして参加者が意見を出し易いように工夫をする	1年間 H27年度内
2	10	来訪時、電話等機会がある毎にご家族と対話を重ね個々の介護に反映させているが、更に全体への運営に反映させる	ご家族が意見や提案を出し易いような環境を整える	ご家族が来訪された時は、必ずスタッフとの対話の時間を設ける。ご家族が意見・提案を出し易いようにお便りに記載してその旨周知する	1年間 H27年度内
3	36	施設内に掲示している個人が特定される写真について書面による同意を得ていない	施設内の掲示についても個人情報の保護に留意する	ホームページへの写真等掲載に関する同意書と同様に、施設内掲示物に関しての同意書を作成して同意の可否を得る	1年間 H27年度内
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。